今日のイラスト 386　　「 イラストでたどる萩往還⑲ 板堂峠」　　古谷眞之助

全長 53km の萩往還の最高地点が、ここ板堂峠である。萩から辿る道は、小さな二つの峠を越えてほぼ 30km を徐々に高度を上げてここに至る。参勤交代時には、この峠を越えれば最初の宿泊地山口御茶屋まではずっと下りだから、誰もがほっとしたことだろう。今では両側からの崩壊を防ぐためにしっかり整備されていささか風情に欠けるが、40 年近く前の昭和 58 年当時の板堂峠の小写真を見れば、これも仕方ないと言える。

イラストでたどる萩往還 19　板堂峠

文・イラスト＝古谷眞之助

萩（唐樋札場）
萩
板堂峠
山口
三田尻（御茶屋）
防府

板堂峠は萩往還の最高地点で、標高537㍍である。整備されて少々風情を欠いているが、その名前は、一の坂銀山で働く人たちが安全を祈願するため峠に板葺きの御堂を建てたことに由来すると言われている。

イラストの奥を左手に進めば、約一時間半で新日本百名山の一つ、東鳳翩山（734㍍）に至る。山頂では360度の展望が楽しめ、遥か津和野の青野山、萩、関門大橋、国東半島、周南方面を遠望できる。

七卿落ちの一人、三条実美は二卿と従者を従えて元治元年（1864）9月21日に吉敷からこの山に登って、「鳳翩の　山をいかにと人問わば　かくと応えん　言の葉もかな」とその絶景を詠ったと伝わる。

板堂峠の名前の由来は、本文にも書いたように、一の坂銀山で働く鉱夫たちが、作業の安全を祈るために峠近くに板葺きのお堂を立てたことに由来する。そのような記載があるし、萩往還の専門家にも確かめたことなので間違いないことである。ただし、国土地理院の地形図の表記には、不思議なことに以下のような変遷があるのを調べたことがある。その結果は右表のようになる。つまり、県立図書館に残る最も古い地形図では坂堂峠と表記されており、それが昭和 6 年に板堂峠に修正されるも、昭和 21 年には再び坂堂峠に戻って、昭和 47 年に再度板堂に修正されたが、平成 1 年にはまたまた坂堂に戻り、平成 24 年に板堂に修正されて、以後現在まで正しく「板堂峠」と表記されるようになった。この変遷について、かつて国土地理院に理由を問合せしたことがある。その答は、地名については地理院が独自に調査するのではなく、地元市町村に確認している、とのことで、その責任は地理院に非ず、とでも言いたいようだった。それはそれとして、私はこの混同の原因を、当時の自治体職員が名前の由来など調べずに安易に回答したためではないかと思っている。しかも「板」と「坂」は非常に類似しているし、峠の地形を考えれば「板」はむしろ不自然で、「坂」の方がしっくりくるのだから始末が悪い。ともあれ、今は正しく板堂峠と表記されている。ついでに鳳翩山の名前の変遷についても書きたいが、もはや紙面が尽きた。（2020.10.21 記）

発行年	表記	地形図縮尺
明治35年06月30日発行	坂堂峠	1/50,000
↓		
大正12年12月28日発行	坂堂峠	1/50,000
↓		
昭和06年02月28日発行	板堂峠	1/50,000
↓		
昭和21年10月30日発行	坂堂峠	1/50,000
↓		
昭和47年02月28日発行	板堂峠	1/25,000
↓		
平成01年10月01日発行	坂堂峠	1/25,000
↓		
平成24年以降	板堂峠	1/25,000